

令和3年度 第4回教育委員会定例会

日時、場所及び出席者

日時及び場所	出席者	
令和3年7月12日(月)	教育長 坂元 裕人	教育総務課長 野村 宏治
午後2時00分	教育委員 田原 正人	学校教育課長 今井 誠
↓		
午後3時55分	教育委員 葛迫 幸平	社会教育課長 兼 米田 昭嗣
第2研修室	教育委員 田之上 厚美	国体推進課長
	教育委員 福里 由加	

会議要旨

1 開会

定刻、定足数に達しており、令和3年度第4回教育委員会定例会を開会した。

2 令和3年度第3回定例会会議録の承認

承認

3 議事

報告第19号 垂水市青少年育成センター協議会委員の委嘱について

報告第20号 垂水市社会教育委員の委嘱について

報告第21号 垂水市立学校給食センター調理・配送業務委託プロポーザル
審査委員会委員の委嘱について

報告第22号 垂水市立学校給食センター調理・配送業務委託プロポーザル
審査委員会の審査結果について

4 その他

5 委員並びに教育長及び課長報告

6 閉会

議 決 事 項

件 名	提案理由	審議の状況	採決の次第
報告第19号 垂水市青少年育成センター協議会委員の委嘱について	垂水市青少年育成センター協議会委員の委嘱について、教育長の臨時代理により決定したこと、及びその内容について報告するものである。	特記事項なし	
報告第20号 垂水市社会教育委員の委嘱について	垂水市社会教育委員の委嘱について、教育長の臨時代理により決定したこと、及びその内容について報告するものである。	特記事項なし	
報告第21号 垂水市立学校給食センター調理・配送業務委託プロポーザル審査委員会委員の委嘱について	垂水市立学校給食センター調理・配送業務委託プロポーザル審査委員会委員の委嘱について、教育長の臨時代理により決定したこと、及びその内容について報告するものである。	特記事項なし	
報告第22号 垂水市立学校給食センター調理・配送業務委託プロポーザル審査委員会の審査結果について	垂水市立学校給食センター調理・配送業務委託プロポーザル審査委員会の審査結果について、教育長の臨時代理により委託業者を決定したこと、及びその内容について報告するものである。	特記事項なし 報告に入る前に、「委員を委嘱」を「委託業者を決定」に訂正。	

議 事 内 容 等

<p>3 議 事</p> <p>社会教育課長</p>	<p>報告第 19 号 垂水市青少年育成センター協議会委員の委嘱について 垂水市青少年育成センター協議会委員の委嘱について、教育長の臨時代理により決定したことを報告するとともに、その内容を説明。</p>
	<p>質疑なし</p>
<p>社会教育課長</p>	<p>報告第 20 号 垂水市社会教育委員の委嘱について 垂水市社会教育委員の委嘱について、教育長の臨時代理により決定したことを報告するとともに、その内容を説明。</p>
<p>教育長</p>	<p>この委員の役割は、垂水市の社会教育行政を進める上で、こういう方針、あるいはこういう目的をもって、以下の事業を進めてよいかということを審議して頂いて、方向付けをしてもらおうということではないか。</p>
<p>社会教育課長</p>	<p>そのとおりです。</p>
<p>学校教育課長</p>	<p>報告第 21 号 垂水市立学校給食センター調理・配送業務委託プロポーザル審査委員会委員の委嘱について 垂水市立学校給食センター調理・配送業務委託プロポーザル審査委員会委員の委嘱について、教育長の臨時代理により決定したことを報告するとともに、その内容について説明。</p>
	<p>質疑なし</p>
<p>学校教育課長</p>	<p>報告第 22 号 垂水市立学校給食センター調理・配送業務委託プロポーザル審査委員会の審査結果について 垂水市立学校給食センター調理・配送業務委託プロポーザル審査委員会の審査結果について、教育長の臨時代理により委託業者を決定したことを報告するとともに、その内容について説明。</p>
<p>田原委員</p>	<p>今回決定した会社はどんな会社か。</p>
<p>学校教育課長</p>	<p>県内のシュアが一番大きな会社であり、全国でも給食センターについては、規模の大きな会社であるので何ら問題はない。私どもが一番気になっていた「人員の確保」についても、緊急の場合には、近隣の他の給食センターから協力を貰えることになっている。</p>
<p>教育長</p>	<p>従業員の時給はどうなったか。</p>
<p>学校教育課長</p>	<p>(プロポーザルに参加した) どの会社にも、今勤めている人が希望されたら全員採用してください、さらに、今の賃金も絶対に確保してくださいと</p>

約束していた。当然、正社員で採用される人もいるが、調理師免許だったり、資格が必要になってくるので、すべて正社員になれる訳ではないが、当面、3人は今のメンバーから正社員を採用する予定である。

実はもう、5日に説明会があり6日には面接を終えている。そして、希望された全員が採用された。勤めてまだ日が浅い3人が、やはり不安だということで辞退されたが、それ以外のベテランの人は、すべて希望され、週2日、週4日の人は週5日になっている。時給は今よりよくなる。

つまりこれまで働いてきた人は優遇されている。これまで働いてきた人を大切にして運営していきたいというこの企業の心意気が現れた形である。

他の会社も、「時給をがんばります。」と言っていたが、それから考えるとこの会社はさらにアップという形なので、今の職員も希望を持って行けるのかなと思う。調理師免許についても、取りたい人には会社としてバックアップしていきたいと言われているので、入ったからにはそこで正社員になるという目標を持って実力を付けてもらいたい。今のところ、2人の責任者は本社から来る予定だが、今のメンバーに任せられるとなったら、この2人もいなくなる。今のメンバーの中から力のある人を育てて、3年以内にはその人を責任者に持っていく、後々は垂水市の今いるメンバーで組織を担えるようにしていきたいという考えを持っている。当然、正社員なので、あまり力を付け過ぎたら、他の所に派遣される可能性も出てくる。新しくできた所にもう何年かとか、それはそんな早い時期ではないと思うが、そういう夢も持てるのかなと思う。

結局、私どもが要望した全ての条件（週5日勤務も可、午前のみ勤務も可など）をクリアしたのがこの会社だった。そこも高く評価され、プロポーザルでほぼ全委員がそこを1位に推しておられた。僅差という会社もなく、トータル的には2位との差があったので、事務局が、「こういう結果が出ましたが、いかがですか。」と問うと、皆、異議なしであった。皆、自分が点数を入れたような会社がこの結果となったので、何も問題はなかった。

教育長 今までの安全・安心と味が担保できるのか。

学校教育課長 そう信じている。まだ食べていないので何とも言えないが、食べたら、今より尚に美味かったということになると思う。安全性については、全然これまでと違う。これまで配送は1人でやっていたが、1人では危険だということで2人体制に変わる。その辺は徹底している。調理工程なども今まで1人という箇所は、安全性を考慮して必ず複数体制で作業をしていくという形で随分改善されてくると思われる。その点はすごく有難いと思う。採用人数についても、16人+2人という構想を考えておられる。1日12人体制でできる作業であるが、余裕を持って今までの作業ができるのではと考えている。

教育長 働く人にとっても、よりよい職場環境になったということか。

学校教育課長 まだ、当然不安はある。今のメンバーも、新しい会社になることで不安

	を抱えていると思うが、それが払拭されてくると思う。「ああ、ここでよかった。」と、きっと言っていただけのものと思っている。
葛迫委員	地産地消は守られるのか。
学校教育課長	そのとおりである。何故かという、今まで通り、市の職員が食材を発注し、栄養教諭が献立をつくる。全部、物は市が調達して、それを会社に渡して調理となる。委託業者が食材を発注する訳ではない。
葛迫委員	この会社は多くの給食センターを持っているので、全ての学校のメニューが同じになるのでは。
学校教育課長	それぞれ、県費負担の栄養教諭がいて、その人が献立を考えるのでメニューが一緒になることは一切ない。
教育長	8月1日からの予定は。
学校教育課長	研修が始まるので、昨年より多めに出勤してもらうことになる。また、全ての工程が複数体制になるので、これまでのやり方がこう変わるという確認をしないといけない。あと、配送も時間がどれくらいかかるか等、たぶん2人で実際に行って確認すると思う。すべての工程を、最初から確認する。運転についても、やはりチェックが入ると思う。制限速度を守っているかとか、実際に制限速度で走ったらどれだけ時間がかかるのか等、そういうことも確認しながら、それに併せて配送時間も決めていかないといけない。
4 その他	教育委員会の事務の点検・評価について
教育総務課長	本日、教育委員から提出のあった、「垂水市教育委員自己点検・評価票」については、事務局で集計し、7月19日開催予定の「第1回垂水市教育委員会外部評価委員会」に資料として提出する旨を説明し了承を得る。
教育総務課長	令和2年度垂水市教育行政の重点施策の推進状況の自己点検・評価票について 教育総務課所管に係る、「重点施策の進捗状況の自己点検・評価票」について、教育委員へ説明し、7月19日開催予定の「第1回垂水市教育委員会外部評価委員会」に資料として提出する旨の了承を得る。
学校教育課長	学校教育課所管に係る、「重点施策の進捗状況の自己点検・評価票」について、教育委員へ説明し、7月19日開催予定の「第1回垂水市教育委員会外部評価委員会」に資料として提出する旨の了承を得る。
社会教育課長	社会教育課及び国体推進課所管に係る、「重点施策の進捗状況の自己点

兼国体推進課長 検・評価票」について、教育委員へ説明し、7月19日開催予定の「第1回垂水市教育委員会外部評価委員会」に資料として提出する旨の了承を得る。

5 委員並びに教育長及び課長報告 委員並びに教育長及び課長報告に入る。

田原委員

「7月6日（火）垂水小学校・柘原小学校の学校訪問に参加して」

垂水小学校では学校経営説明の中で、校長先生がもう3年目ということで、取り組みの歩みと成果が感じられた。いじめや不登校の取り組みについて質問したところ、どのように対処したかということがよく分かった。それは、担任任せにしないこと、管理職が保護者と話し合う機会を持って、保護者の困り感に寄り添うことが大切だと説明させた。そのとおりだと思った。得てして、担任や学年主任任せになっていた部分が、今まで他の学校でもそうだと思うがあったのかなと思った。おそらく校長先生自身が、先頭に立って実践され、問題のある家庭の環境を改善することに、担任やSSWと連携して取り組まれた成果だろうと感じた。授業については、タブレットを効果的に使いこなし、思考の広がりやまとめに役立てている学級もあった。また、授業の終末でドリルとして活用し、児童が喜んで活用している学級もあり、子どもたちが喜んで使う様子を見られて嬉しかった。何としてもせつかくの機器なので、児童がわくわくしながら使う機器となって欲しいと思った。それから機器とは別に、ある教師の授業を拝見したが、1時間の授業の中で、あの先生はあそこの部分を意図してされたのか、それとも授業の流れの中で、ここは教師として譲れないポイントだと思われたのか分からないが、算数の割り算の問題で、余りが3なのか0.3なのかというところは、ここは大事なポイントだと思われて子どもたちにじっくり考えさせる授業をされていたので、子どもたちの食い付き方が普通と違っていた。子どもたちの考えた方が二つに割れていても、最終的に教師が「こうだよ。」と教えるのではなく、子どもたちの気づきの中で、その成果がよく出ていたのには感心した。子どもたちの持っている気運と言うか、そういったものを揺さぶったりしながら、最後に子どもたちから答えを引き出すという手法は流石だなと感心した。本当によい授業を見せてもらった。やっぱり、機器もこういった授業ができる人が使えばより素晴らしいものになると思った。

柘原小学校は、3年目の教頭を前面に出して説明させる校長先生の計らいも絶妙であった。この資料の緻密さにはいつも感心させられる。小規模校のよさを前面に出して、学力・読書・体力検査・歯の健康など個別に継続的にデータを蓄積し、それを使って職員全員が共通理解の下に、課題解決の実践を積み重ねていて、ここが小規模校の強さだと思った。タブレットの使い方も教科で工夫され、小規模校に向けた使い方ができているように感じた。2校ともまだ完全ではないが、機器がどんどん使われ始めているなど大変嬉しく思えた。

「7月6日（火）垂水小学校・柘原小学校の学校訪問に参加して」

葛迫委員

垂水小学校の朝1番の授業参観は、6年2組の音楽「翼をください。」ということで、子どもたちの豊かで大きな歌声が教室内に響き渡り、朝から元気な感じがいいなと思う事だった。音楽の授業を授業参観の最初に持ってきたことに、何となく意味を感じた。そして私たちに、今日一日の学校訪問が楽しく過ごせていけそうな嬉しい始まりを予感させてくれる内容でもあった。外国語科の指導法では、外国語でコミュニケーションを楽しみながら学ぶことで力を付けていこうとする姿勢は素晴らしいと思って見ていた。実際の授業では歌を歌いながらの指導であった。歌って覚える外国語、また喋って覚える外国語、そして踊って覚える外国語、そしてそれが耳に入ってくる外国語。こういったコミュニケーションの取り方が非常にいいなと感じたので、今後もコミュニケーションを生かした授業の膨らみを期待したい。

柘原小学校は、タブレットの使いこなしが素晴らしく、飲み込みが早い。何故かなと思ったが、教師と児童の距離が近いこともあるが、それを差し引いてもやはりよい教育状態にあるのではないかと感じた。また、新しく校長先生が替わり、「学校だより」とは別に、単発で発行される校長室からの「まなざし」にも子どもを大切にする校長先生の想いを非常に感じた。校内研修では、「関わり合う力を高める少人数・複式学習指導の工夫」をスローガンに掲げ、タブレットなどの道具と児童、そして教師、保護者、地域など、すべてが関わり合っていこうとする姿勢が見られた。その関わりは、これからもっと大きく膨らんでいくなと感じられ、また期待も持てた。今後が更に楽しみである。先日新聞に掲載された「おろごめ」にしてもそうである。伝統を絶やすのではなく、何か少しでもいいから、穴を掘るだけでもいいからやっつけよう、関わっていこうという気持ちが子どもたちにも浸透していると思われて、柘原小学校はこれからますます楽しみだと感じた事だった。

「学校訪問について」

田之上委員

大きな学校である垂水小学校では、350人を超える児童が学校生活を送っているため、コロナ禍において、日々大変なことだろうと感じている。それでも、子どもたちが元気で過ごしている様子をじかに見ることができて安堵できたように思えた。

授業では、私もタブレット端末の活用にごく興味があり、色々な活用の仕方を参観することができたことはよかったと思った。人数が多く、能力も個人差があるので、1人の教師が児童全員に目が届くのか心配もあるが、先生方が工夫され、全員に目が届くように寄り添った活用がなされるように期待している。

先生方は、それぞれ力を持っておられることだが、ますます研鑽を積んでいただきたいと思う。

垂水小学校で1点気になったことがあって、鉛筆の持ち方については常日頃から言っているのだが、今回は、「言葉遣い。」であった。低学年のクラスで、授業中なのに先生に対して愛称で呼び掛ける児童がいた。とても児童から人気のある先生であって、その先生に、親しみを込めて言っているとは思っているのだが、授業中はせめて、「〇〇先生」と言うような、きちんと

した呼び方をした方がいいのではないかなと感じた。

柘原小学校に着いたのは、昼休みの時間だったので、元気に遊んでいる子どもたちと、私たちを出迎えてくれるように玄関先で「こんにちは」と明るい声で挨拶してくれる子どもたちに迎えられて、着いた早々にとても嬉しくなった。

柘原小学校は、小規模校のよさを生かした、それぞれの子どもたちに応じた学習支援であるとか、授業でのタブレット端末の使い方などを工夫して活用されている姿が見られた。PTAや地域の協力で多くの活動をこのコロナ禍でも継続して行われていることは有難いなと思うことだった。

「市内放課後児童クラブ研修会に参加して」

先日、放課後児童クラブの研修会があったので参加した。講師に霧島市の青葉児童クラブ主任支援員で、県の研修等でも講師を務められている、田間 美沙緒氏をお招きし、「子どもの遊びの理解と支援」をテーマにご講演いただいた。私達は放課後を児童と一緒に過ごす訳だが、その中でやはり生活のルールであったり、発達に応じた遊びの提供であったり、遊びのルールであったり、児童との様々な関わり方が私達にとっても、非常に難しく、毎日悩みながらの日々であるが、田間さんの長年の経験からくる話を聞くことができ、また、お互い悩みも一緒だったり共感もあったりしてとてもよい機会となった。折に触れ、学ぶことの大切さを改めて感じた研修会であった。

「7月6日（火）学校訪問に参加して」

垂水小学校は、クラス数が多いので、タブレットの使用状況もバラつきがあるように感じた。幼稚園でも子どもたちがスムーズに動けるためには、やっぱり教師の声掛けがすごく大切だが、小学校でも先生の投げ掛けというのがすごく大事なと感じた。

ある女性教諭の発問の仕方で、子どもたちの授業に対するわくわく感が出てきて、授業の進み方や子どもたちのやる気が変わってくるのを目の当たりにした。また、投げ掛けだけではなく、発言した児童に対して、「それ、いいね！ えっ、本当に！」とか児童がわくわくしてくるみたいな発言をしてくださるのを見ると、息子が先生のことを大好きなのがよく理解できた。子どもたちは、先生のその言葉に凄く救われていて、「それいいよ！ それ、すごいね！」とかよく言うてくださるようで、本当に有難いことだなと思っている。

昨日は、サッカーの試合があって、違う学年の子を車に乗せた時のことだが、「自分のクラスの先生は大人しい。隣のクラスとその隣のクラスの先生は凄く元気があるのに、自分の先生は全然声が小さい。楽しくないんだよね。」とその女の子が言ったのです。やっぱり声のメリハリというか、何と言っているのか分からないが、先生に対して児童は一所懸命話しかけているのに、先生はずっとタブレットを見ていて、児童の言葉を聞いているのか分からない。そういう態度を子どもは敏感に察知するのかなと感じた。先生がタブレット習得に一所懸命になっている感じがして、そんなところも、親の立場としてはもう少し子どもたちに声掛けをしてもらえたらなという思いがした。

福里委員

柗原小学校では、タブレットの使い方を様々な方法で子どもたちが取り組む姿がとても印象的だった。「これでできないから、こっちでやってみよう。」と言う児童がいて、「わあっ！そんなに色々知っているんだ。」と私はびっくりした。

いつも柗原小学校に行く度に思うのだが、家庭との連携というか、家庭を巻き込んだ取組がとても魅力的である。それこそタブレットを使ってPTAで説明をしたり、色々なことにPTAを巻き込んでやっていて、地域と一体となって親子で学校を盛り上げている感じがとても素晴らしい。体力面では投力を高めるために補助運動を行っていて、今度の家庭教育学級では投力が弱いので投力を補うために「その道のプロ」を呼んで、練習や説明があるらしく、親子で学ぶ機会があるようだ。そういう苦手な事を親子で家庭でも取り組む事も家庭教育の充実には必要なことだと思った。

「垂水小学校の授業参観とPTAに参加して」

7月8日、9日は垂水小学校のPTAと水泳授業参観が行われた。長男の方には主人が行き、私は3年生の娘のPTAに参加した。2年生の学習があまり身に付いていなくて、クラス全体で2組のNRTも結果が悪かったようだ。

算数の授業で、やたらと鉛筆の音がすると思ったら、計算をする度に、鉛筆を机に置き、手を使って数えているとのことで、計算力が身に付いていないと先生から言われた。

また、人の話がしっかり聞けない子がいるとも言われた。凄くよく発表をしてくれるのだが、自分が発表をしたいがために、今話している児童の話は何も聞いていない。人の話をしっかり聞くことで学習能力も上がるのではないかと言われていた。それから、物を大切にしないという話もされた。誰かの持ち物なのに、聞いても自分の物だと言わなかったり、名前も書いてなかったりで、もう少し、物を大切にしたい気持ちを持って欲しいとの指摘もあったので、帰ってから自分の娘にも話をした。なお、GIGAスクールのタブレットのことも、娘の前の席の子が授業中にユーチューブを見ていたらしく、「それって、見ていいの？」と私に聞くので、「授業中にユーチューブは見れないでしょう！」と答えたら、「でも、前の子は見てたもん！」と言ったのを息子が聞いて、「ユーチューブを見るときは先生の許可がいるんだよ！」と言っていたが、下学年に対しては、もう少し徹底してルール作りをするなど、色々な面で配慮をしなければならないことがあるのではないかと感じた。

「19市教育長・総務課長会について」

教育長

7月8日に19市教育長会・総務課長会を垂水市で開催した。通常であれば1泊2日の日程で午後から会議をスタートする。まずは全体会、その後教育長会と総務課長会に分かれての分科会、その後、夜の情報交換会となるのであるが、このご時世なので、情報交換会は取り止め、会議も時間を短縮して開催し、3時間くらいで終了した。昨年も担当市であったが、コロナで中止となった。本来であれば、次の開催市に送ってもよかったのだが、次の市の教育長が交代されると分かっている、そんなことはできないので、今年も垂水市で引き受けることにした。準備が大変だったが、教育

総務課を中心に、学校教育課、社会教育課にも手伝ってもらいながらよい形で研修会そのものはできたと思っている。

特に「垂水らしいGIGAスクール構想」を私の方でプレゼンさせてもらった。さらに、私、課長、指導主事など皆で知恵を出して作った物、所謂、成果物を一冊のパンフレットに集約し、参加された全市に差し上げた。色々な広報、テレビ、通信、実践の事例、貸し出しの際のルール、その他の全てを集約した物を成果物として提供し、データも必要とあればいつでも差し上げますと。結果、ある教育長からも、「垂水はやっぱり1歩も2歩も先に進んでいる。」という言葉をいただいた。

先を行っているということは、非常に嬉しいことで、学校教育課長をはじめ、指導主事に頑張ってもらっているお陰であると思っている。尚且つ、始動が早かったのも幸いした。去年の9月には動き始めていて、先生方、その次は保護者、次は市民を巻き込み、段階を踏みながら、学校におろしていった。今、スタートしたばかりであるが、実践ができていくと、他の教育長さんも非常に関心を持たれて、その結果、今ではあっちこっち、垂水市は引っ張りだこの状態である。8月6日に「未来を開く鹿児島県の教育シンポジウム」という、鹿児島の教育を方向付けるような、県の中でもかなり大きな研修会がある。その研修会で、小学校を代表して、新城小学校の校長先生が、また、中学校は、教頭先生がすべてを束ねる形で、本市の指導主事が発表することになった。本来であれば、人を集めて大人数で行うのであるが、コロナ禍なので、会場は県総合教育センターで、テレビ会議システムで情報発信することになった。

GIGAスクール関係で言うと、垂水市と出水市、この2市が先進的な取り組み事例と言うことで発表する。また、委員の皆様もご承知のとおり、新聞にも垂水市の教育関連記事が掲載されている。KYTも追いかけて垂水らしいGIGAスクール構想の取材をしてくれる。ただ、考えていけないといけなは、先程、委員の皆様からも話が出たように、学校間・学級間・教師間の格差を如何にしてなくすかということである。それから、使用に際してのルール。如何にしてルールを守らせるか、学校と家庭が連携を図りながら、きちんと指導していくことが大事だと改めて思う事だった。

教育総務課長 4課長から5月9日から6月8日までの主な行事等の実施状況について
学校教育課長 報告するとともに、7月16日までの行事予定についてお知らせした。
社会教育課長
国体推進課長

6 閉 会